

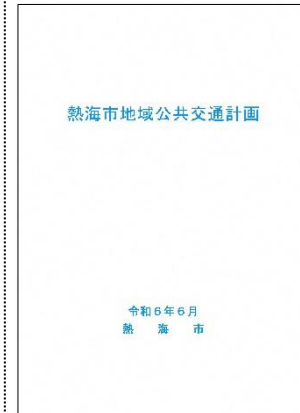
熱海市地域公共交通計画 【解説版】

●「地域公共交通計画」とは？

熱海市には鉄道、路線バス、航路、タクシーといった公共交通機関があり、市民や観光客の皆さんの移動を支えています。しかし、人口減少やライフスタイルの変化などによる公共交通の利用者数の減少、さらに、運転士不足にともなう相次ぐ減便により、一部では公共交通ネットワークが存続の危機となっています。

これを踏まえて熱海市では、令和6年6月、将来の公共交通ネットワークのサービス水準の維持・向上のための今後5年間の取り組み内容をまとめた「熱海市地域公共交通計画」を策定しました。

熱海市地域公共交通計画



●熱海市の公共交通ネットワーク



東海道新幹線
東海道本線
首都圏・関西圏を結ぶ幹線路線

路線バス
東海バス、伊豆箱根バス、
箱根登山バスの3社が市内を運行

■公共交通の現状と課題

●公共交通ネットワークの確保

人口減少に伴う利用者の減少、バス・タクシーの運転士不足の深刻化などにより、今後は市内の公共交通の維持・確保が困難となることが予想されます。地域により都市構造や地域特性が異なる中、既存交通をベースとした持続可能な交通サービスの構築が必要となります。

●生活移動への対応

熱海市では、10代や高齢者など自動車が利用できない方の交通手段として公共交通の利用割合が高くなっています。しかし、公共交通の満足度は低く、サービス改善を望む意見も見られることから、公共交通の利用傾向の高い世代の移動ニーズへの対応が必要となります。

●観光移動への対応、市内中心部の混雑への対応

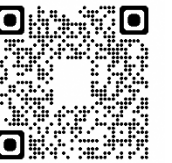
熱海駅では、特に路線バスの行き先の案内がわかりづらいといった問い合わせが多くなっています。また、バスターミナルなど駅前の混雑が顕著であり、観光客の移動の利便性・快適性が十分に確保されていません。二次交通の案内強化、利便性向上の取り組みを行い、観光地の周遊性を向上させる取り組みが必要となります。

●熱海市における公共交通の基本方針

市民の暮らしやすさと観光客の周遊性の向上のための「公共交通」の実現

市域全体に広がる公共交通網を最大限に活用し、市民の暮らしやすさと観光客の移動快適性の双方の向上を目標とし、住みやすく何度も訪れたい熱海を目指します。

▼計画の詳細はこちら



●熱海市の3つの目標と実施事業

◆目標1 公共交通・バス路線のサービス維持を目指す

既存路線の維持とサービス向上を目標として、運転士不足への対応、路線の利用促進策や交通事業者の収益改善策を実施します。
また、現時点で維持困難な路線については、地域で協議する仕組みを構築します。

◆実施事業

- ・初島航路の船舶改修の補助
- ・維持困難バス路線の補助の検討
- ・地域で協議する仕組みづくり
- ・市の広報を活用した利用促進策
- ・運転士募集に関する周知支援 など

◆目標2 高齢者等の移動の利便性向上を目指す

日常生活の移動に困っている方々と意見交換を行い、移動利便性向上の仕組みづくりを行います。
また、バリアフリー車両の導入、乗合タクシーの実証実験などの検討を行い、誰もが快適に移動できる環境づくりに向けた取り組みを推進します。

◆実施事業

- ・障がい者タクシー料金助成
- ・バリアフリー車両の導入
- ・自宅で行う買い物の支援
- ・新たな移動手段の実証実験の検討
- ・交通分野のデジタル化の推進 など

◆目標3 観光に関する移動の利便性向上を目指す

熱海駅などの交通拠点の混雑緩和に向けた取り組みを実施し、観光客の移動の利便性向上を目指します。
また、観光事業と公共交通の連携を強化し、事業者の交通収益確保に向けた取り組みを推進します。



◆実施事業

- ・熱海駅バスターミナルの混雑緩和策
- ・バスターミナルの案内強化
- ・観光マップによる周遊推進
- ・周遊チケットの検討
- ・ICカード決済導入補助 など

■今後5年間の実施事業（一例）

▼初島航路の船舶改修



出典:富士急マリンリゾートHP

▼バスターミナルの案内表示の改善検討



▼高齢者移動支援セミナー



▼熱海駅前の混雑対策



▼ナンバリングの取組み



▼周遊フリーパスの充実化



▼熱海市観光ガイドマップ



出典:東海バスHP、伊豆箱根バスHP